

研究推進校事業報告書

<取組と成果のポイント>

本年度の三つの大きな取組に対して成果のポイントを記述する。

一つ目は、外部講師を招いた道徳勉強会である。5人の先生を招いて、6回の学習会を開いた。道徳の教材開発、指導方法、指導案検討や授業研究などを模擬授業を入れながら行ったことで、全職員の力量向上が図られた。学んだことは、後日教務がレポートにまとめ、全職員に配付し振り返りが出来るようにした。

二つ目は、道徳の授業と道徳的実践の場としてのE S D活動実践の展開である。各学年、E S Dカレンダーを基に実践を行った。

特に5年生の実践については詳しくレポートにまとめた。4月から8月までの1学期を中心とした実践であった。総合的な学習の時間と道徳を連携させ、シンキングツールを使って話し合いを行い、見つかった課題をもとに取材活動に出かけた実践は高い評価を受けた。上記二つの内容については、学校HPから詳しく知ることができる。

愛知県道徳教育推進会議委員の視察日には、一斉に授業公開した。E S Dとの連携を図った授業、シンキングツールを使った授業、本年度の研修を生かした授業の三つのパターンを公開した。ドラえもんやペットボトルなど、身近な教材を使っての教材開発に関して高い評価を受けた。また道徳とE S Dとの連携や、シンキングツールの活用については他の学校へ広めていってほしいという評価をいただいた。

三つ目は、自己肯定感を高める取組である。4年生のソーシャルスキルトレーニング、5年生のハッピートークトレーニング、6年生のアサーショントレーニングは、甚目寺小の自己肯定感を高める系統的な活動である。そのうちの5、6年生は、外部講師を招いて行った。こうした人間関係を学ぶ学習は、人間関係が希薄となりがちな現代っ子にとっては、非常に重要であった。こうした活動が土台となり、学校生活を円滑に楽しく過ごすことができ、ひいては自己肯定感を高めることにつながった。

1 推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	生徒数	備考
あま市立 甚目寺小学校	あま市甚目寺西 40 番地	052-444-0040	6 3 8 名	

2 研究課題

- (1) 思いやりや郷土愛を中心に据えた道徳的心情の高まりの育成
- (2) 道徳の授業と並行して、道徳的実践の場としてのE S D活動実践の展開
- (3) 自己肯定感を高める学級活動の取組

3 研究主題とその設定理由

「地域に根ざした創意工夫あるE S D活動と道徳教育の連携」

—道徳的心情の高まりが生み出すE S D活動—

本校は人権教育を継続して取り組んでおり、最近ではそれに加え平成22年度からE S Dに取り組み、平成24年12月にユネスコスクールに登録を果たしている。E S Dの柱は今までの流れを受け継ぎ、人権教育である。また本校の道徳教育も、人権教育を中心に展開してきており、今はE S Dと一体となって進めている。つまり本校の教育活動は、人権教育を柱とした道徳と生活科や総合的な学習の時間を中心に、他の教科、特別活動等と連携を図りながら、各学年のE S D年間指導計画やE S Dカレンダーに則って進められている。

人権教育の継続的な取組とE S Dの展開により、仲間への思いやりや学校や地域を大切にする気持ちが育ってきている。しかしそれが道徳的実践力となっているかといえはまだ不十分である。例えば仲間同士の挨拶はできるがそれが地域の人へとは広がっていない。そうじはまじめにするが、自主的に判断して行うことはまだ不十分である。学年やクラスで地域をよくしようと働きかけをしているが、道徳的心情の高まりが十分図られているかといえは、未知数である。したがって、今後は地域やそこに生活する人々の思いについて考え、そこから学習課題を見つけ、地域に働きかけていく実践を積み重ねていく必要がある。

そこでキーワードとなるのは、「思い」である。仲間への強い思い、それを発展したかたちでのクラスや学校や地域への思い（愛）である。それを育むために、自己肯定感を育て、自分を好きになる取組をしていきたい。自分を好きになれば、友達を認め、思いやることができる。さらにクラス、学校、地域への思い（愛）へとつながっていく。「思い」を大切にし、E S Dで実践していくことで、道徳的判断力や実践力が育っていくであろう。

4 研究の概要及び特色

主題の実現をめざして、学校教育全般を通して計画的に道徳教育を推進する。その際、E S Dの活動と道徳の時間の内容面での効果的な連携及び、E S Dの活動を地域の中に出て行う道徳的実践の場ととらえ、実践的な研究を進める。

(1) 研究仮説

地域やそこに生活する人々の思いについて考え、E S Dの活動と道徳の時間の連携を図るならば、道徳的心情の高まりや、道徳的実践力が育つであろう。

(2) 研究の内容

ア 思いやりや郷土愛を中心に据えた道徳的心情の高まりの育成

(ア) E S Dカレンダー（E S Dの取組が、道徳や生活科や総合的な学習の時間を中心に、他の教科、特別活動等と関連していることが分かる月別に示したチャート図）の中に道徳を位置づけ、道徳とE S Dの取組の連携を強化する。

(イ) 外部講師を招いて、思いやりや郷土愛を中心に据えた道徳的心情の高まりを促す授業研究会を開く。

イ 道徳の授業と並行して、道徳的実践の場としてのE S D活動実践の展開

(ア) 各学年のE S D活動テーマ

1年：学校周辺や幼稚園・保育園との交流	2年：地域の商店街や施設との交流
3年：地域の福祉	4年：地域の自然環境
5年：地域の産業	6年：地域の文化遺産

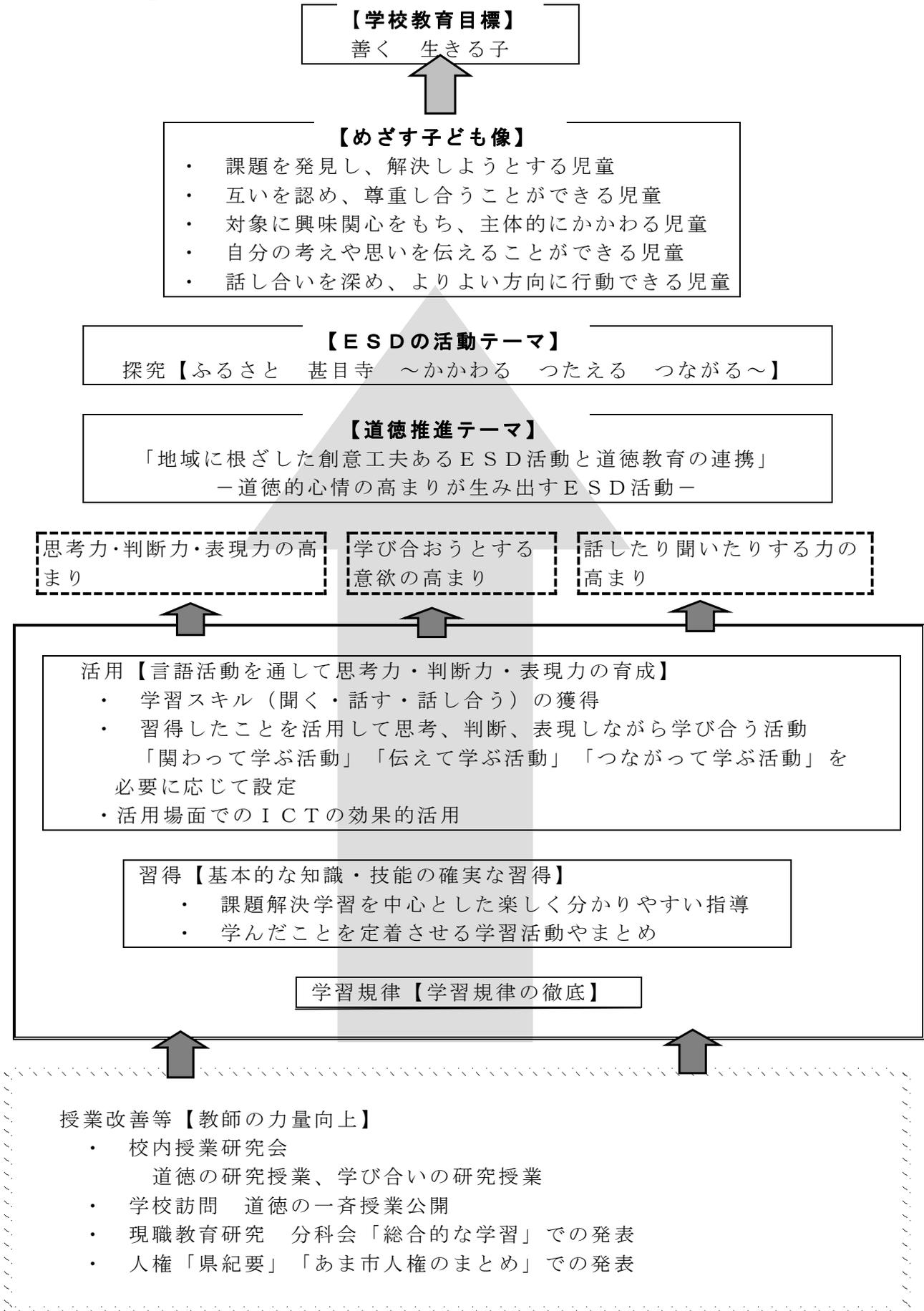
(イ) 道徳の授業と並行してのE S D活動実践の展開

- ・ 地域の人々の人材活用による地域を知る活動
- ・ 地域で学んだことを発信する活動
- ・ 地域に貢献するための具体的な行動

ウ 自己肯定感を高める学級活動の取組

高学年を中心とした取組として、4年ではソーシャルスキルトレーニング、5年では、ハッピートークトレーニング、6年ではアサーショントレーニングを行う。

(3) 研究構想



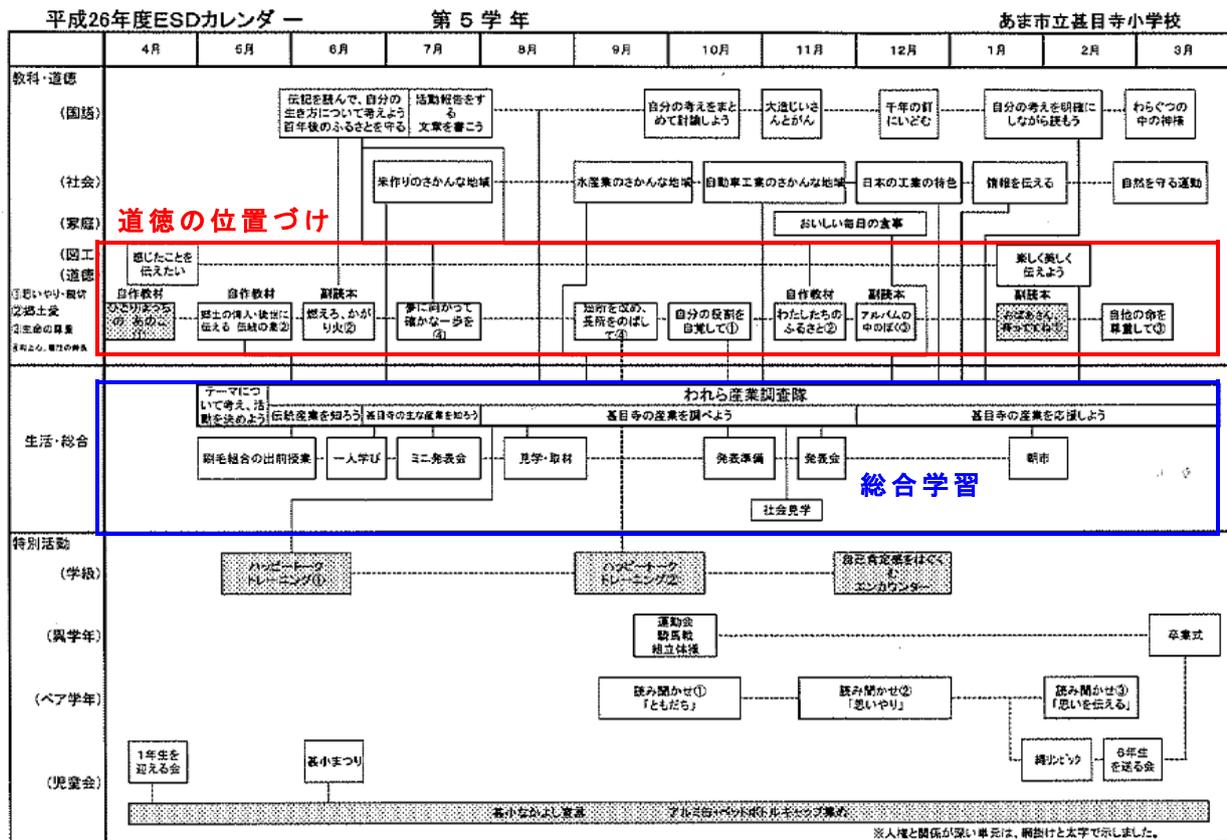
5 研究課題に係わる取組

(1) 講師を招いての勉強会

研究の基本となる考えについて講師を招いて学習会をすることで、全職員で共通理解をした。小牧市立小牧中学校長の玉置崇先生、愛知教育大学教授の鈴木健二先生、愛知淑徳大学非常勤講師の柴田八重子先生を招き、授業をする上で大切なこと、道徳の指導の時間で大切にすること、道徳の資料の取り上げ方などを学んだ。また、関西大学総合情報学部教授の黒上晴夫先生を招いて、シンキングツールについて学んだ。

さらに、愛知教育大学の土屋武志先生や名古屋女子大学講師の鈴木公司先生には、話し合いや学び合いによる学力の向上について、見識を深めた。これらは、後日内容をレポートにまとめ、全職員に配付し振り返りが出来るようにした。また、学校HPにも載せて教員の学習の様子を広く公開した。

(2) ESDカレンダーの見直し



ESDカレンダーは、総合的な学習の時間と他教科・領域との関連を示し、1年間の活動を表したものである。本年度は、道徳による情意面の強化を重視した。そのため、昨年度までのESDカレンダーを見直し、ESDの取組に対して、その時々に必要な情意面の成長を補う道徳の自作教材の選定や副読本の活用などを盛り込んだ。

1年生から6年生まで（特別支援学級を含む）各学年が見直しを行った。

(3) 海部地区現職教育研究総合的な学習部会、学校代表レポートの概要

本年度は5年生の実践をレポートにまとめて発表した。甚目寺には、100年以上前から行われている日本一の生産を誇る「刷毛作り」がある。この「刷毛作り」を教材として取り上げ、道徳との連携を図りながらESD活動を展開した。

ア 実践の流れ

(ア) 道徳授業「ひとりぼっちのあの子」の実践 4月

学級での仲間作りのために宮沢章二氏の詩と書籍「行為の意味 青春前期のきみたちに」の中の詩を用いて、「思いやり」の意味について考えさせた。

(イ) 総合的な学習の時間「刷毛の出前授業」 5月

刷毛組合の方3名を招き、刷毛の歴史や作り方、直面する課題などの話を学年全員で聞いた。授業後、「初め、刷毛だと聞いて『微妙…』と思ったけど、話を聞いたら歴史があって、すごいものなんだと分かった」「刷毛を作っている人が少ないと聞いて、手伝わなければと思った」など刷毛について興味をもつことができた。

(ウ) 道徳授業「後世に伝える伝統の技」 6月

出前授業をうけた形で刷毛作りの「人の思い」に迫る道徳を行った。創始者、山崎政三郎さんのふるさと甚目寺に貢献できた喜びが書かれた資料や刷毛組合の方の刷毛作りに対する今とこれからの熱い思いをビデオレターで語ってもらい、児童は作り手の心に触れることができた。

(エ) 総合的な学習の時間「甚目寺の産業を調べるにあたって」 6月～7月

これから11月までの間で、グループに分かれて甚目寺の農業、商業、工業について調べ学習をしていく上で、手元にある資料で調べたい産業を調べ、各クラスでミニ発表会を行った。発表会では、シンキングツールの一つであるXチャートを使い、調べた内容を「仕事内容」「歴史」「誇れること」「人の思い」の四つの項目に分類して発表させた。そこで気づいたことは、「人の思い」が調べられていないことだった。ビデオレター等で知っていた刷毛作り以外は、ほとんど調べられていないことが分かった。そこで、夏休み以降に取材活動を行い、「人の思い」を中心に調べてくることとなった。道徳で学んだ「人の思い」の大切さやXチャートで気づいた「資料では『人の思い』に迫ることは出来ない」事実。道徳との連携、シンキングツールの活用で、児童の調べたいという思いに火がつき、取材活動へと向かう意欲が高まった。



【Xチャートで分類】



【Xチャートを見ながら発表】



【夏休みの取材活動】

(4) 道徳の授業公開及び一般公開

学校公開日に、保護者や地域の方、関係諸機関に道徳の授業を一斉に公開している。10月16日(木)には、愛知県道徳教育推進会議委員等の視察があり、全クラス道徳の公開授業を行った。ESDとの連携を重視して、「思いやり・親切」以外にも「郷土愛」「生命尊重」「個性の伸長」の4項目を選んで公開した。また、授業の視点として以下の3点を設定した。

- ・ 主として総合的な学習の時間や生活科との連携を図った授業
- ・ 目的に応じたシンキングツールを使った授業
- ・ 今までに培ってきた人権教育や本年度の研修を生かした授業

ア 授業例 第4学年3組 「ヒキガエルとロバ」 3-(1) 生命の尊重

(ア) 本時のねらい

- ① 命の尊さに気づき、動物の生命を大切にしようとする気持ちを高める。
- ② 話し合い活動において、自分の考えを友達に進んで話したり、友達の考えを認めたりして、思いやりの気持ちを高める。

(イ) 実際の授業

資料を読み、アドルフとピエールの行動を考え、よいと思うところ、悪いと思

うところを児童に発表させた。その発言をPMT（よいと思うところ、悪いと思うところ、振り返り）分析表を利用して、板書した。PMT分析表を使うことで、何をよいと思っているのか、何を悪いと思っているのかというクラス全体の傾向をつかむことができた。道徳的価値の自覚を深めるのに、有効な手段だった。



【B紙に表されたPMT分析表】



【ドラえもんを教材に使った道徳】



【環境を扱った道徳】



【Xチャートを使った道徳】



【福祉を扱った道徳・同心円チャート】



【人権教材の道徳】

(5) 総合学習発表会（地域で学んだことを発信する活動）

11月21日（金）には、総合学習発表会を行った。甚目寺小のESD活動を保護者や地域の人に知ってもらおう場として位置づけている。1年生の場合、来年度入学する園児を招待して、自分たちが作ったおもちゃを使って遊ぶことで最初のつながりの場としている。2年生以上は、取材や出前授業でお世話になった人を招き、学んだことを発表して見てもらうことで、つながりの場としている。係わった方との交流を深めることは、子どもたちと地域がつながり、地域愛を育む大切な場である。



【園児と交流する1年生】



【グループ発表：4年生】



【発表の様子：6年生】

(6) 地域に貢献するための具体的な行動（道徳的実践力の育成）

お世話になった方々へのお礼や学んだことを実践する場として、各学年何をするのか子どもたちが話し合い、毎年工夫を凝らした取組を行っている。その中で既に終えたものを紹介する。

ア 2年生

町探検でお世話になった商店街の方に、生活科で育てたさつまいものツルや秋に採れるドングリの実、松ぼっくりなどを使ってリースを作り、クリスマスプレゼントとして、お礼の手紙を添えて渡した。一生懸命心を込めて作ったリースや書いた手紙を喜んで受け取っていただけたので、安心したようだった。後で感想を聞いたとき、「喜んでもらえてよかった」「早く飾ってもらいたい」などと自分たちの行いに満足している様子が伺えた。



【お礼をする2年生】

イ 3年生

福祉について学んだ3年生は、2学期に学校近くのデイサービスセンター「銀羊苑」に出向いて、クラスごとでそこを利用している方々をもてなした。どんな内容にするかは、毎年話し合いで決めている。

今年は、リコーダーや手話ソング、民謡踊りを発表し、国語科「学校行事をしようかいしよう」と関連して、おじいちゃんやおばあちゃんに甚目寺小学校のことを紹介した。交流の時間では握手をしたり、手遊びをしたり、折り紙で一緒に遊んだり、おじいちゃんやおばあちゃんのお話を聞いたり、とてもあたたかい雰囲気の中子どもたちもおじいちゃん、おばあちゃんも笑顔いっぱいだった。帰りは名残惜しくさようなら。子どもたちにとって、とても貴重な体験となった。



【全員でリコーダーを披露】



【お話をしっかり聞きます】



【すっかり仲良くなりました】

(7) 自己肯定感を高める取組

ア 4年生…ソーシャルスキルトレーニング

各学級で毎月学活の時間を利用して、担任が中心となって進めた。参考文献としては、「いま子どもたちに育てたい学級ソーシャルスキル」（河村茂雄・品田笑子・藤村一夫編著、図書文化）を参考にした。

イ 5年生…ハッピートークトレーニング

毎年開催しているハッピートークトレーニング。今年も5年生を対象にフロムサーティーの方々を招いて、各学期ごとに出席授業を行った。この授業を通して、言葉が相手や自分の気持ちに大きく影響をおよぼすことを学んだり、人間関係を作っていくことを学んだりした。

2学期行った内容について述べると、自分と相手の共通点を探すゲームから始まり、自分自身の性格を見つめたり、友達のよいところを見つけたりした。自分自身の性格を見つめる場面では、マイナス思考をプラス思考にかえることで、自分の知らない一面に気づくことができた。1学期に続き、2回目の講義であったが、子どもたちからは、「友達から自分のよいところを見つけてもらって、うれしかった」や「1学期に学んだこととは、別のことを学ぶことができて、とてもよかった」などという声が聞かれた。



【共通点を見つけるゲーム】



【友達のよいところ発表】

ウ 6年生…アサーショントレーニング

6年生も各学期ごとにスクールカウンセラーの先生を招いて、アサーショントレーニングを行っている。アサーショントレーニングとは、自分と相手、互いのアサーティブ権（人権）を尊重した上で、自分の意見や気持ちをその場にふさわしく表現できるようにするトレーニングである。つまりどちらも傷つかずにさわやかな関係を築くためのトレーニングである。1学期のキーワードは「さわやか」だった。さわやかになるために、相手も自分もどちらも傷つかない方法をケーススタディで考えた。



【登場人物から考える】

6 研究の評価

(1) 研究の成果

- ア 思いやりや郷土愛を中心に据えた道徳的心情の高まりの育成について
- ・ ESDカレンダーを見直し、道徳の授業の連携強化を図ったことで、計画的にESDの実践と道徳の授業が関連するようになった。
 - ・ 5人の講師の先生による影響は大きく、職員全員の共通理解が図られて、各学年の実践に直接に結びついた。
- イ 道徳の授業とESDの連携を図った実践
- 5年生の実践では、総合的な学習の時間では行動面、道徳では情意面と取組を行ってきたが、共に関連づけ合いながら進めることができた。総合の取組の中で、「人の思いに重点を置いて調べていきたい」とする考えもその成果である。
- また、このような他教科にまたがる授業の実践を通して、授業をすべて単発的に考えるのではなく、つながっているものであるという意識を児童にもたせることができた。児童の中には、社会科で米作りに関する単元を行った時にも、「総合でやっている農業と関係してくるね」といったような視点をもつ者がいた。これは、ESDカレンダーの中に包括されている教科・教材のつながりにあたり、それを児童に気づかせることができた。
- さらに、話し合いにおいてシンキングツールを用いたことにより、視覚的に見やすく分類するという役割だけでなく、新しく課題を見つけるという別の役割において、シンキングツールの価値を見いだすことができた。話し合いの結果が明確に見えることから、児童も課題を「人の思い」と位置づけ、主体的に活動することができたと考えられる。
- ウ 自己肯定感を高める学級活動の取組
- 4年生から計画的に進め、5年生以上では出前授業を行い実施していることで、互いに仲間同士うまくやっという意識が高まっている。

(2) 今後の課題と取組

道徳とESDの活動を連携していくために有効な手立てとしては、道徳の自作教材開発が挙げられる。ただし、道徳の自作教材は、作るのに大変時間がかかるため、今後も学年ごとに年に一つか二つずつ増やしていきたい。

また、話し合いから課題を見つけたり、課題を解決したりするための仕分け作業については、課題に応じて様々なシンキングツールがある。これらを児童が自ら見つけて使っていけるように引き続き習熟させていきたい。また、仕分けした後の話し合いについては、解決に向けて適切な話し合いができ、高め合っていけるようさらなる研究を続けていきたい。

人間関係作りについての学習も4年生からではなく、1年生から計画的に取り組んでいけるようにしていきたい。